

抵抗性クロマツの植樹について

長久保公園は都市緑化植物園として、防災、景観、環境保全、レクリエーションの機能はもちろんのこと、本市の緑の情報発信の場として、平成元年の開園以来、多くの市民に親しまれるとともに、「市の木クロマツ・市の花フジ・市の鳥カワセミ」、全てを観察することが出来る貴重な公園であります。

また、本公園の西側に位置する展望台や当該地一体は海岸砂丘の名残であり、従前より、クロマツ林が形成され、辻堂地区の土地の生い立ちを知るにあたり、大変貴重なものであります。

しかし、本公園においても、松食い虫（マツノザイセンチュウ）の影響でクロマツの立ち枯れが起り、クロマツ林の景観が危機的な状況で、周囲からも再生等、対策の声が挙がっていました。

このようななか、市内の緑地環境保全団体等で構成される「湘南緑の連絡協議会」からマツノザイセンチュウの抗体をもった「抵抗性クロマツ」の苗木 40 本をご寄附（植樹）いただきました（2013 年（平成 25 年）3 月 17 日）。

本市で管理を行う都市公園では初の試みであり、クロマツ林の復元に向け、今後は苗木の成長過程を見守りつつ、適正な管理を行っていきます。

抵抗性クロマツとは？

抵抗性クロマツとは、マツノザイセンチュウが樹体内に侵入しても枯れない性質をもったクロマツをいいます。

マツノザイセンチュウの被害により、壊滅的なマツ林のなかにおいても、生き残っているマツがたまにあり、このマツがマツノザイセンチュウの抗体をもっていることがあります。このようなマツを集めてマツノザイセンチュウの接種実験を重ね、マツノザイセンチュウに強いマツを選んでいきます。

（参考：マツ再生プロジェクト（財団法人 日本緑化センター））

当日の植樹風景

